

在宅医療・介護連携推進事業：住民啓発（事例）

愛の訪問協力員・となり組福祉員等合同研修会（気高町地域福祉推進協議会）

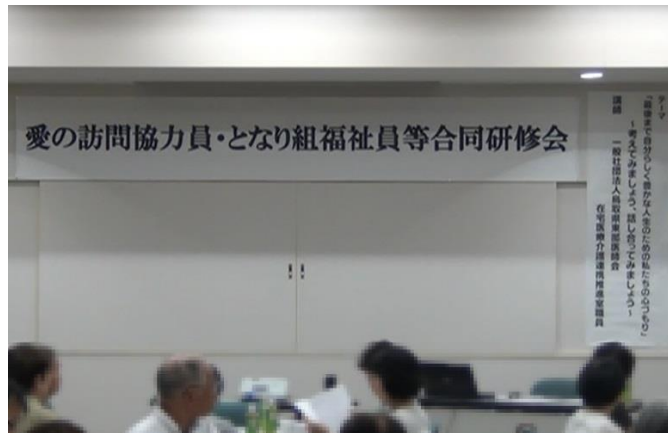
テーマ： さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり
～考えてみましょう 話し合ってみましょう～
ACP（アドバンス・ケア・プランニング）のすすめ

日時： 平成30年7月26日（木） 13:30～15:00（90分）

場所： 気高町総合支所2階会議室

参加者： 50名

【内容】 DVD「我が家（うちげえ）に帰りたい」、パンフレット「さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり」、終活支援ノート「わたしの心づもり」を使つてのACP啓発。



（概要）

なぜ今地域包括ケアなのか、自助と互助とは、困ったときはどこに相談すればいいのか、また鳥取市の人口推移やニーズ調査結果の一部を説明しました。

DVDの第1幕は視聴のみですが、退院し在宅生活を送る上でのポイントを解説しました。

(住民啓発) 我が家(うちげえ)に帰りたい (第一幕のポイント)

(グループワーク)

- 裕次郎さんの希望する在宅生活を送るには、どのようにしたらよいでしょうか？
- 在宅生活を心配するご家族へどのように対処したらよいでしょうか？

(第1幕のポイント)

「退院から在宅療養にむけての流れを理解する」
「介護保険制度について理解する」
「自助、互助の視点の重要性を理解する」

グループワーク

～考えてみましょう・話し合ってみましょう～

- (裕次郎さんの家族のように) 将来、事故や病気などで自分の考えを伝えられなくなる場合に備えて、あらかじめ自分の思いや考えを話し合っておくことについて、どう思いますか？

DVDの第2幕を視聴した後、参加者の全員で「あらかじめ自分の思いや考えを話し合っておくことをどのように思いますか？」について話し合いました。

資料とパンフレットによりACP（アドバンス・ケア・プランニング）について説明・解説し、事前指示書の作成ではなく話し合うことが大切であることを再確認し、ACPの理念に基づいた終活支援ノート「わたしの心づもり」を紹介しました。また、終活支援ノートの「もしもの時は」のページを記入する体験もしていただきました。そして、やはり1人で書くのではなく家族等と一緒に話し合った上で書くようにと講師の体験も交えてお話ししました。



【講師感想】

講演の機会をいただきました気高町地域福祉推進協議会長様、同事務局の皆様ありがとうございます。終活支援ノートが完成してから初めての本格的な住民啓発事業でした。地域包括ケアからDVDによる「本人の選択と本人・家族の心構え」の大切さ、そしてACPの考え方とACPに基づく終活支援ノートと、たくさんのお話しをさせていただきました。グループワークでも真剣に議論が進んでいました。参加された皆様、また気高町地域でのACPの考え方の普及と「わたしの心づもり」を考える切欠の一助になりましたら光栄です。ありがとうございました。

(講師：東部医師会在宅医療介護連携推進室・橋本渉)

■ 講師・ファシリテーター・事務局：参加 7名